

海外との交流学習の授業設計を考える ワークショップ

東北学院大学教養学部
稲垣 忠
<http://www.ina-lab.net/>

自己紹介

- 稲垣 忠(いながき ただし)
 - 東北学院大学 教養学部 講師
 - 宮城教育大学 非常勤講師
- 専門は「情報教育」「教育学」
 - 学校間交流学習の授業設計
 - 携帯電話の教育利用と情報モラル
 - デジタルコンテンツを活用した実践とその評価
- 担当講義「教育方法」「コンピュータ科学」等



ネットワークが子どもたちの学びをどう変えていくのか？

今日の流れ

- 13:15—今日の流れとゴールの説明
- 13:20—自己紹介&実践報告(30分)
- 13:50—授業設計モデルの説明(20分)
- 14:15—ペアでお互いの実践を整理しよう(15分×2)
- 15:00—国際交流の学びに大切なものはなんだろう？
- 15:20—単元計画にまとめてみよう
- 15:50—発表&質疑応答(30分)
- 16:20—まとめの話(稲垣:15分)

あくまで「予定」ですが・・・(^^)

学校間交流学習とは？

- 地域の離れた学校間をネットワークで結んだ学習
 - 学級単位の交流が多い。教師の役割の大きさ
 - 地域性(文化・風土)の差異が、学習の題材、文脈になる
 - 同じゴールに向かって“協同する”・学級の学びを交換する交流



交流に「学び」を埋め込む

- 交流活動をどうデザインするか？
 - 活動目標と学習目標の開き
 - 交流パートと各校で進めるパートの組み合わせ
- 教科・総合のねらいをどこで反映させるか？
 - 交流のできる部分とできない部分
- スケジュールや思惑のズレ・・・
 - ねらい⇒活動⇒手だて⇒評価
 - 活動⇒ねらい⇒手だて⇒評価

交流学習の授業設計モデルとは？

- Instructional Designと協同学習
 - IDモデルとIDプロセスモデル(Reigeluth)
 - Johnson&Johnsonの協同学習法、ジグソー法
 - 学習環境設計(黒上)
- 枠組みモデル
 - 作りたい授業の「青写真」:要素と関係を示す
- 手順モデル
 - 実際に授業をつくる手続き。

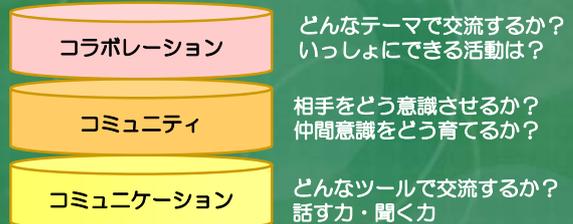
交流を「学び」としてデザインする目安にお使いください。

授業設計モデルができるまで

- 事例研究 & 構成主義の学習論をもとに構築
- 2004年11月から2005年3月にかけて調査
 - 34名の教師から870枚の付箋紙を収集
 - インタビューを含めて1人あたり1.5～2時間

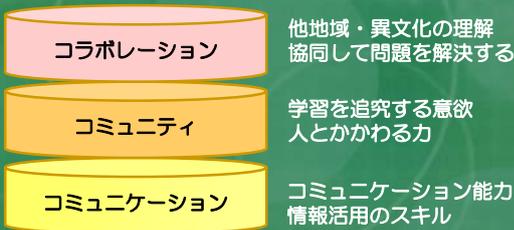


学校間交流学習の3つの「C」



交流学習はこの3つのレベルが同時進行する学習

学校間交流学習で育つチカラ



※126の実践記録から集計

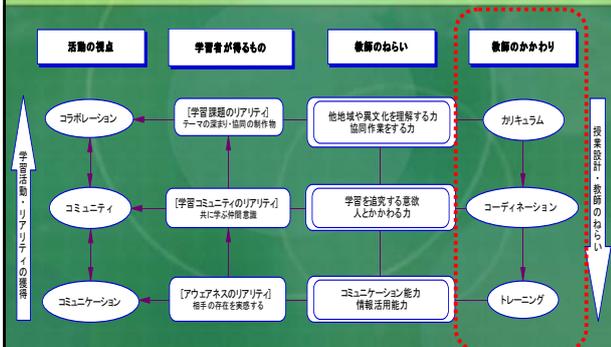
どこに力点を置いたプランづくり、指導をしていくか？

交流で育つ“学びのリアリティ”



相手がいるリアリティ⇒いっしょに学ぶリアリティ⇒学ぶ 中身のリアリティ

枠組みモデル



手順モデル

準備段階	1. 交流相手を見つける
	2. 交流の素材・テーマを考える
	3. 交流手段を選び環境を整える
	4. 交流活動を具体化し計画を立てる
	5. ねらいを位置づけ明確にする
実践段階	6. 相手校と出会い、仲間意識を形成する
	7. 学習者のコミュニケーションを点検する
	8. グループと役割分担を工夫する
	9. 関わりあいを生かして追究の質を高める
	10. 振り返りと展開を見通す場面を設ける
前提条件	0. 教師間の連携と周囲への説明をはかる

例:ステップ4～活動は4タイプ

- 交流体験
 - 体験目的。違いや共通点に気づく。仲良くなる。
- 実践報告
 - お互いの学校の取り組みを比較・議論する
- 共同調査
 - 調査方法をそろえて結果を比較する
- 協働活動
 - 制作、イベントの開催などいっしょに何かをつくる

交流学習お助けプログラム

- 交流学習の実践希望者を募集
- 交流相手のコーディネート、実践へのアドバイス→モデルの活用と調査データの収集
- 10組24校が参加



2006年度も
やります！

授業設計モデルの有効性を評価する



ワークシートによるモデル活用支援+学習者の意識変容で評価

プランニングワークシート(6月)

- 手順モデルの準備段階をカバー
 1. 交流相手を見つける
 2. 交流の素材・テーマを考えてみましょう
 3. 交流手段を選び環境を整える
 4. 交流活動を具体化し計画を立てる
 5. ねらいを位置づけ明確にする

交流学習の計画立案にモデルを反映させる
必要な支援が何かを把握する

リフレクションワークシート(8月)

- 手順モデルの実践段階をカバー
 6. 相手校と出会い、仲間意識を形成する
 7. 学習者のコミュニケーションを点検する
 8. グループと役割分担を工夫する
 9. 関わりあいを生かして追究の質を高める
 10. ふり返りと展開を見通す場面を設ける

3階層を意識して手だてを
ふりかえる支援



ペアでリフレクションをしてみよう！

- 2人組をつくります(次のページで組み合わせを出します)
- まずは交流の流れを聞き取り、確認します。(5分程度)
- 手だてについてワークシートにあわせて聞き取り調査します(10分程度)
- 大事にしたい点・改善ポイントを整理してみましょう。

15時からペアごとに改善ポイントのご報告をお願いします！

組み合わせはこちら！

A	寝屋川北小 野克将先生	広島三原小 青原先生	越智
B	高槻三箇牧 井潤先生	広島三原小 岡先生	江口阿里
C	高槻阿武山中 山本先生	広島三原中 松尾先生	津越ちか
D	京都八幡高校 札埜先生	広島三原中 大和先生	巳波
E	寝屋川市教委 北條先生	ECC 塩飽さん	藤原みつき
F	ECC 亀井さん	広島三原幼 洲濱先生	谷口螢

単元計画を考えよう

- 来年度実践してみたい交流の大まかな流れをイメージしてみてください。
- 5の「ねらいを位置づけ、明確にする」に重点を置いてください。前のセッションの改善点が反映されるように。
- 煮詰まったらいろんな人のアイデアを見てみましょう(^^)

15:50より、1人5分程度でステップ5を中心に発表 & 質疑をします。

まとめ

- 交流学习の授業設計モデル
 - 枠組みモデルと手順モデル
 - 3階層:
- 活動⇒ねらい⇒手だて⇒評価
- モデルを使って実践をつくる
 - プランニング+リフレクションワークシート

ポータルサイトで素材提供中！



<http://www.ina-lab.net/special/copo/>